

# 学校法人京都成安学園 令和5年度 事業計画

## ■ 学校法人京都成安学園 建学の精神「成安・誠と熱・実践教育」

京都成安学園の歴史は、大正9(1920)年7月17日、学祖 瀬尾チカが成安裁縫学校の設立を京都府知事から認可されたときから始まります。

京都成安学園では、学園名だけでなく成安裁縫学校以来これまで設置してきたすべての学校名に成安という言葉が冠してきました。設立当時は「心身ノ鍛錬、誠実勤勉ノ美德、経済的ニ独立シ得ル実力ノ養成ニ努メ、内ニ在リテハ則チ家庭ノ主婦トシテ、良妻トナリ賢母トナリテ、家ヲ治メテソノ繁栄ヲ計リ、出デテハ則チ国家ノ良民トシテ、国運ノ進展ニ寄与シ得ル新時代ノ婦人ヲ養成スル」ことを目的としていたことから、それらを要約し「成安」と名付けました。時代の変遷に伴い、現在では「成安」について「成とは成し遂げること。安とは安寧であること。つまり成安とは人の和を大切に、一人ひとりが自己の使命を追求し、全うし続けることを通じて、心安らぐ平和な社会をつくることに貢献するという意味である。」と解釈しています。

学祖は、学習と実行の上には、事の大小にかかわらず、誠と熱とをもって終始するよう毎日の生活を鞭撻しており、これが学園の指導精神であること、そして、正しい信念からほとぼしり出る純真な誠とすべてのものを生かし得る熱をもって生徒に対して範を示さなければ、学校教育において「成安」という言葉が意味するところの目的を達することはできないと説いています。学祖の人生訓でもある「誠と熱」、誠実さと熱意と置き換えても良いこの言葉は、学園の建学の精神であるとともに校訓として、学園に関わる全ての者の歩むべき道筋を照らしています。

設立当時の成安裁縫学校の校則第1条には「本校ハ時代ノ進歩ニ伴ヒ最モ新ラシキ和洋裁縫及ビ実用的手芸ノ一般ヲ教授シ併テ自活学習ノ便ヲ与エ兼テ婦徳涵養ニ資スルヲ以テ目的トス」と謳われており、女性に自活できる能力を修得させることが学校設立の趣旨でありました。こうした女性の社会的・経済的地位を向上しようとする先進的な取り組みは、瀬尾チカの体験に裏付けられた確固たる信念に基づくものでした。以来、社会で役立つ知識や技能を修得させる教育、すなわち「実践教育」は本学園における学校づくりの基本的な考え方となっています。

## ■ 学校法人京都成安学園の目指す将来像

京都成安学園は、建学の精神や学園設立の精神から導かれる「実践教育」「ものづくりの教育」を中心とした学校運営を行い、教育・研究・社会貢献のいずれの分野においてもトップレベルの質を維持し、名門と呼ばれるに相応しい学園を目指します。

## ■ 学校法人京都成安学園

### 【事業計画】

#### 1 中長期財務計画の改定

学校法人京都成安学園 中長期財務計画を改定する。計画期間は、令和 11(2029)年度までとする。

#### 2 資産運用体制の構築

##### (1) 運用環境の整備

規程を整備し、安全性を担保したうえで資産運用範囲の拡大を図る。

(2) SDGs 債（グリーンボンド・ソーシャルボンド・サステナリティボンド）への投資と投資表明  
従来の利回り（経済的リターン）やリスクといった運用の効率性に加えて、環境・社会へのインパクト（投資意義）も意識した資産運用体制の構築を目指す。

#### 3 私立学校法改正に係る寄附行為変更等の検討とその他必要な対応

私立学校法改正に係る寄附行為変更内容等の検討や内部統制事項の整備等の対応を図る。

#### 4 退職金制度の改定

令和 5 年度退職者からの適用を目指して退職金制度を改定する。【令和 4 年度からの継続課題】

#### 5 理事会の開催

下記のとおり、理事会を開催する。

- (1) 第 214 回 理事会 令和 5 年 5 月 27 日（土）
- (2) 第 215 回 理事会 令和 5 年 7 月 28 日（金）
- (3) 第 216 回 理事会 令和 5 年 10 月 27 日（金）
- (4) 第 217 回 理事会 令和 5 年 12 月 2 日（土）
- (5) 第 218 回 理事会 令和 5 年 12 月 2 日（土）
- (6) 第 219 回 理事会 令和 5 年 12 月 15 日（金）
- (7) 第 220 回 理事会 令和 6 年 2 月 2 日（金）
- (8) 第 221 回 理事会 令和 5 年 3 月 1 日（金）
- (9) 第 222 回 理事会 令和 5 年 3 月 23 日（土）
- (10) 第 223 回 理事会 令和 5 年 3 月 23 日（土）

#### 6 評議員会の開催

下記のとおり、評議員会を開催する。

- (1) 第 46 回 評議員会 令和 5 年 5 月 27 日（土）
- (2) 第 47 回 評議員会 令和 5 年 12 月 2 日（土）
- (3) 第 48 回 評議員会 令和 6 年 3 月 23 日（土）

## 7 監事監査計画

### (1) 監査方針

「学校法人京都成安学園監事監査規程」（平成20年4月25日制定）に基づき、監事監査を以下のとおり実施する。

本法人の教育・研究機能の向上と財政の基盤確立に寄与し、以て法人の健全な発展及び効率的な運営に資することを目的とし、本法人の建学の精神のもと、設置校が掲げる教育理念に沿って、教育目標を達成するための諸活動を検証するという観点に立ち、法人及び理事の業務執行状況並びに財産管理の適正性について監査を行う。

なお、監査の実施にあたり、内部監査室との密なる連携に努め、更に会計監査人とも十分に意思疎通を図り（監査人会の開催）、以て実効性の高い監査の実現を目指す。

### (2) 監査事項

監事監査規程第5条に定める事項について、監査計画に基づき年間を通じて以下の監査を実施する。

なお、監査に当たり、理事会、評議員会、大学機関会議等重要な会議に出席するとともに、業務に関する重要な文書を閲覧し、監査に関する文書・資料の提出を求め、理事及び関係部課長並びに大学役職者等に面談・説明を求める。

- ①理事会の運営状況及び理事の業務執行状況
- ②教育・研究における「内部質保証」システムの適正性・妥当性並びに取り組み状況
- ③関係諸法令、規程等の整備状況及び実施状況
- ④中期経営計画及び令和5年度事業計画の実施状況
- ⑤組織及び制度全般の運営状況
- ⑥決算報告書及び財務諸表の真実性及び妥当性
- ⑦資産の取得、管理、処分 of 適法性及び妥当性
- ⑧経営執行の効率化及び業務能率化の状況
- ⑨その他、監査の目的を達成するために必要な事項

### (3) 重点監査項目

- ①理事会及び大学のガバナンス体制について
- ②教育・研究における「内部質保証システム確立」の取り組み状況について
- ③学内規程を中心としたコンプライアンス徹底強化への取り組み状況について
- ④学校法人京都成安学園成安造形大学ガバナンスコードの運用状況について

### (4) 業務監査（含む教学事項）

- ①理事会・評議員会の運営方法（意思決定とそのプロセス）の適正性
- ②教授会及び大学機関会議等の運営方法（意思決定とそのプロセス）の適正性
- ③理事会の決定に基づいた事業計画等執行状況の適正性
- ④教育・研究における「内部質保証」に向けた各種システム・取り組みの有効性・適切性
- ⑤三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用について
- ⑥内部統制機能の効率性及びリスク管理状況の適切性
- ⑦各種法令・諸規定等の改正への対応の適切性
- ⑧法令に基づく情報開示の適正性及び迅速性
- ⑨施設の管理・保全の適切性

(5) 会計監査

会計業務が「学校会計基準」に準拠し、学園の予算制度に基づき合理的・効率的に執行されているか否かを監査する。予算の執行状況・決算書等の適正性・妥当性等について確認するとともに、会計監査人の監査への立会、その監査結果及び監査人会での意見交換を通じ、会計監査を実施する。

①期中会計監

予算の執行状況の適正性、期末収支予想の適正性、取引業者の選定と契約内容の適正性、取引記録の正確性、固定資産の購入・廃棄・譲渡等の手続きの適正性、偶発債務認識の適正性等について監査する。

②期末会計監査

会計処理対象の網羅性、計算書類・財産目録の真実性及び明瞭性並びに適法性及び整合性、勘定科目の適正性、財産の管理状況の妥当性、計算書類における脚注表示の適正性等について監査する。

(6) フォローアップ監査

監査の過去における指摘事項についての措置状況を確認し、未措置の理由を確認する。

(7) 監査人会

会計監査人、内部監査室と連携し、監査状況や問題点を報告し、情報の共有・意見交換を図る。

## 8 学園報の発行

令和5年9月、京都成安学園 学園報『SEIAN』VOL.11を発行する。

## ■ 成安造形大学

近年、社会環境は大きく変化しています。人口の減少に伴い、生産年齢人口も急減しており、グローバル化や超スマート社会、SDGs など、これまでの工業化社会から知識基盤社会へと変わりつつあります。このような変化が激しい予測不可能な社会においては、主体的、能動的に生涯学び続けられる人材が必要とされており、高等教育に対して、そういった人材の育成への期待が高まっています。このような社会的な要請の高まりから、高等教育を取り巻く環境も激変しており、高等教育の無償化や高大接続改革など、国策が次々と打ち出されています。そのため、これまでの比較的閉鎖的で守られた環境から、内部質保証における第三者評価の受審や情報公開による説明責任など、より一層の透明性が求められる状況に加え、18歳人口の減少、入学者の多様化や国際化、ICT化、大学間競争など、これまで以上にスピード感のある改革が必要となっています。このような状況を踏まえ、本学では教育・研究の質的向上を最優先に、2019年度から2028年度までを期間とする中長期経営計画を策定し、以下のとおり経営戦略目標を設定しました。

### 【大学中長期経営計画 経営戦略目標】

1. 質保証システムの確立  
学修者本位の教育実現の観点で、教学マネジメントを確立し、教育の質的転換と付加価値の向上を推進する。結果を重視し、教育成果を実証的に表現する。
2. 教育・研究の高度化、先鋭化と拡張  
より高い創造的能力とより深い社会的視座を育成するための独自の取り組みを推進する。芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進し、教育に反映していく。
3. 「就職に強い芸術大学」の評価確立  
就職を希望する学生が、高い確率で就職できるシステムを盤石にし、その社会的評価を確立する。
4. グローバル化、多様化の推進と対応  
大学進学18歳人口の減少を踏まえて、多様性を受け入れるシステムを構築し、多様なニーズに対応できる体制を整備する。
5. 卒業生との連携強化  
卒業生との親密な交流を推進すると共に、相互的利益を図るネットワークを形成する。
6. 地域連携の深化  
地方創生への貢献を具体化し、地域における存在感を向上する。全国区の芸大でありながら地域拠点でもあるハイブリッドな役割を果たし、独自のポジションを確立する。
7. 財務体質強化と体制整備  
永続的な大学発展のために、財務体質の強化を図りつつ、大学運営の将来を担う組織体制を整備推進する。

同計画の5年目である当年度は、本学開学30周年の記念すべき年度でもあります。歴史や文化に富んだ滋賀県唯一の芸術大学として、ここ大津仰木・雄琴の地に開学して30年が経過しました。これまで送り出した卒業生は約6,000名にのぼり、アートやデザインはもとより社会の各分野で活躍の場を広げています。そして「芸術による社会への貢献」という教育理念の下、地域や社会と連携した教育研究活動を推進し、高等教育機関として評価を高めてきています。そして、次世代型芸術大学への進化に向けた起点となるよう、小規模である本学ならではの教育の質を最優先に、本学のこれまでの歴史や伝統、培ってきた教育研究の成果を振り返り、改めて本学の価値を再認識する機会とします。

以上のことから、令和 5 年度事業計画は、開学 30 周年記念事業と令和 3（2021）年度に受審した大学機関別認証評価の結果を踏まえて取り組んできた令和 4 年度事業計画の点検・評価に基づき、中長期経営計画の到達目標の達成に向けた事業を中心に、学生や教職員の安全性に配慮しつつ、学生の学修機会を確保するため、ウイズ・アフターコロナを見据えたコロナ禍対策事業を計画しました。

※前年度に受審した大学機関認証評価では、改善を要する点及び参考意見はなかった。

## I. 中長期経営計画

### 1 質保証システムの確立

- (1) 令和4年度より新学事システム（Active Academy Advance<sup>\*1</sup>）及びポータルサイト（Seian Active Portal<sup>\*2</sup>）の運用を開始し、効果だけでなく課題も出てきていることから、その改善に向け運用方法を確立するとともに、令和5年度より本格導入する学修成果可視化システム（Assessmentor<sup>\*3</sup>）の運用方法を構築する。
- (2) 「今後の入学者の在り方を検討する会」からの答申を基に、高等学校新教育課程や定員増を踏まえつつ、AP（アドミッション・ポリシー）と初年次教育の関係を検証した上で、今後の入学者選抜試験制度を検討する。
- (3) 新学事システムを導入したことにより、学生自身で成績確認や履修登録などの手続きがウェブ上で可能となったことから、従来の新学期ガイダンスの在り方を見直す。
- (4) 令和 5 年度よりプロジェクト科目とスタディスキル実習を見直したことから、その成果や問題点を抽出した上で改善を図るとともに、他の初年次教育科目についても令和 6 年度からの実施に向けて見直しを行う。
- (5) 遠隔授業や課題提出などに有用なオンライン上の学習管理ツール（Google Classroom<sup>\*4</sup>など）が教員個々で多様化していることから、本学における学習管理ツールの標準パッケージを構築する。

※1 「Active Academy Advance」とは、学事に関する情報管理を簡便にし可視化することで、教職員の負担を軽減し、きめ細かな学生支援を実現させる大学経営・事務総合パッケージシステム。

※2 「Seian Active Portal」とは、学生がオンライン上で履修登録や時間割の管理など学生生活において必要な手続きが行え、休講などの各種大学情報を確認できるポータルサイト。

※3 「Assessmentor」とは、学生の理解度をはじめ、3つのポリシーの整合性やカリキュラムのアセスメントなど教学マネジメントに必要な学生の学修成果を可視化するシステム。

※4 「Google Classroom」とは、各授業の課題の作成・配布・採点・フィードバックをはじめ、成績管理や本人への連絡などに活用できる Google 社が提供する学習管理アプリ。

### 2 教育・研究の高度化、先鋭化と拡張

- (1) イラストレーション領域において 4 コース制がスタートすることから、その授業環境を更に充実させるための整備を図るとともに、同領域のショールームを整備し、教育効果を高め、入学者募集力を強化し、同領域のブランド化を推進する。
- (2) 附属図書館において、令和 3 年度よりオンラインで実施している学生選書事業について、新型

- コロナウイルス感染症の状況を鑑みつつ、効果を重視し書店の実店舗で選書作業を実施する。
- (3) 現情報デザインコンピュータ室 1 を映像編集コンピュータ室（仮称）として再整備し、PC 端末を Apple 社のハイスペック機である Mac Studio にリプレイスする。
  - (4) ファブリケーションコモンズで運用している光造形 3D プリンタについて、後継機種にリプレイスする。
  - (5) 学生の研究活動支援「SEIAN ドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」、学生の主体的な地域活動支援「seian チャレンジ」を推進する。
  - (6) 特別研究助成の充実を図るとともに、研究・連携支援課のスタッフ体制を充実させ、研究や連携事業の支援体制を強化する。

### 3 「就職に強い芸術大学」の評価確立

- (1) キャリアサポートセンター長を中心に、今後のキャリアサポートセンターのあり方を検討する。
- (2) キャリアデザイン科目について、開講科目数が多く内容が多岐にわたっていたことから、授業科目と内容を精査し、再構築する。
- (3) キャリアデザイン科目担当者とキャリアサポートセンター事務課との連携を強化し、キャリアデザイン科目のシラバス内容を社会的な要請に即したものにアップデートする。
- (4) 就職や進路に対する学生の意識を早期から醸成するため、2 年生対象のショート面談を始める。

### 4 グローバル化、多様化の推進と対応

- (1) 既存の学生会組織の活動について在り方について検討する。
- (2) 学内奨学金の在り方について再検討を行うとともに、入学後の給付型奨学金や授業料減免制度の在り方について検討を行い、経済的理由による離学率を減少させる。
- (3) 芸術分野の裾野を広げるために、中学生を対象とする公募型オープンキャンパスを実施する。
- (4) 外国人留学生の日本語能力向上と卒業までに日本語能力試験の資格取得を促進するため、日本語課外講座を実施するとともに、日本語能力試験受験料助成制度を検討する。
- (5) 離学者対策として、令和 4 年度実施の 1 年次の進級判定結果や令和 5 年度実施の授業出席状況を教職員で共有し、履修指導や就学支援方法の検討を行った上で新たな履修指導を実施する。
- (6) 車いすを利用する学生を受け入れることから、教職員や学生に対してノーマライゼーションの理念を醸成するための研修会等を実施するとともに、その支援体制を構築する。また、中長期的なバリアフリー計画を立案する。

### 5 卒業生との連携強化

- (1) 新生活様式（アフターコロナ）における新たな同窓会との連携事業を策定する。
- (2) 外国人留学生における卒業後のネットワーク構築について、他芸術大学の状況を調査の上、オンライン上でのコミュニティの構築方法を企画する。

### 6 地域連携の深化

- (1) 滋賀県および京都府の関係団体、地元企業を招き、本学の教育・研究内容や学生の学修成果などプレゼンテーションする企業向け大学説明会を企画する。
- (2) 「コミュニティスペース結」を 11 月にリニューアルオープンする。
- (3) 地域の芸術拠点として「キャンパスが美術館」の認知度向上を図るため、大学所蔵作品を活用

した展覧会など、多様な企画を実施する。

## 7 財務体質強化と体制整備

- (1) 入試執行の効率化とミス防止、志願者の利便性向上を図るため、インターネット出願システムを導入する。
- (2) 本学ウェブサイトにおける領域紹介コンテンツを充実させる。本学ウェブサイトや SNS から接触して来た受験生へのプロモーションを強化するとともに、今後の大学案内（紙媒体）のあり方について検討する。
- (3) 本学ウェブサイト上での領域紹介や紙媒体からの移行など積極的なデジタルコンテンツを利用した募集活動の構築を行う。
- (4) イベントや営業活動が対面実施に戻りつつある中で、学内で実施するオープンキャンパスや連携授業などへの参加促進のため、団体バス動員のプロモーションを強化する。
- (5) 人事管理システム及び年末調整システムの導入し、雇用契約や入社手続きをペーパーレスで完結し、教職員情報を蓄積するとともに、年末調整や Web 給与明細、様々な労務手続きをデジタル化する。
- (6) 改正電子帳簿保存法に対応したシステムを導入し、あらゆる国税関係書類を検索要件に必要な取引年月日・金額・取引先を正確にデータ化した上で保管する。
- (7) 教育職員の退職が暫く続くことから、安定的な運営体制を構築するために、中期的な人事計画を策定するとともに、必要な人材確保に向けて、採用条件の見直しや柔軟な採用方法、研修システムを整備する。
- (8) 開学 30 周年を機に、クリエイティブサポートや卒業制作の在り方、アフターコロナ・ウィズコロナの対応、コミュニティスペース結や作品収蔵庫の在り方、学部・学科の在り方、バリアフリーや施設の保全改修、その他教育研究活動全般において見直しを行った上で、今後の大学ビジョンの実現を明確にし、その実現に向け必要な施設設備の整備や人的運営体制の構築など総合基本計画を立案する。

## II. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、学生及び教職員の安全性を最優先に、教育の質を担保しつつ、学生の学修機会の確保と学生支援の充実を図った上で、コロナ禍終息を見据えた教育環境を整備するため、以下の事業を行う。

- (1) 共有部の定期的な消毒作業などの衛生管理を徹底するとともに、換気扇の取替やウイルスの飛沫防止用アクリルパネルの増設など、必要な設備備品を整備する。
- (2) 職場内の人流抑制を図るため、教職員の出勤管理システムや年末調整システムの導入を図る。
- (3) コロナ禍終息を見据え、講義室の定員や各実習室やラボ、食堂等厚生施設における感染症対策を見直し、状況に応じた設備等の整備計画を立案するとともに、学生の課外活動の正常化に向けた新基準を策定する。

## III. 成安造形大学開学 30 周年記念事業

本学は令和 5（2023）年度に開学 30 周年を迎えることから、これまでの 30 年間の教育研究の軌跡を振り返り、輩出した卒業生との繋がりを深めた上で、改めて本学の価値を再認識するとともに、



新たな高等教育機関としての価値を創造することで、学内外に向けて、本学の存在意義をアピールし、ブランド力を向上させる絶好の機会と捉え、以下の記念事業を行う。

(1) 成安ホームカミングデー 2023 30th anniversary

- 日 時：令和 5 年 11 月 11 日（土曜日）  
会 場：成安造形大学 多目的スペース結・芝生グラウンド  
内 容：○レセプションパーティ  
○キッズホーム（託児サービス）  
○成安フリーマーケット  
○キャンパスツアー  
○セイアンでんぱ（学内ラジオ放送）  
○成安造形大学特撮部ヒーローショー

(2) 成安造形大学開学 30 周年記念展覧会

2023 秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション 16

「Error of Real（仮称）」

- 会 期：令和 5 年 10 月 13 日（金）～11 月 11 日（土）  
場 所：成安造形大学【キャンパスが美術館】 各ギャラリー

(3) 附属近江学研究所 特別公開講座

「禍 転じて～禍 とともに暮らす 自然災害と里山の再生～」

- 日 時：令和 5 年 5 月 13 日（土）  
場 所：和邇文化センター  
講 師：今森光彦（写真家、成安造形大学客員教授、附属近江学研究所参与）

## IV. 事業計画

### 1 芸術学部

#### (1) 学部全体

##### ①事業方針

- 開学 30 周年を迎え、これまで培った教育研究資産を見直し、新たな付加価値を創出するとともに、今後の大学ビジョンを明確にする。
- 令和 5 年度より実施する卒業研究 1 および 2 の標準プロセスの運用状況を確認したうえで、問題点を明らかにし円滑な運用を目指す。
- 質保証システムの確立に向け、学修成果の可視化や高度な教学マネジメントに資する取り組みを計画的に実施する。
- 教育職員の退職が暫く続くことから、円滑な体制移行を図り、安定的な運営体制を構築する。
- 入学者の多様化が進んでいることから、少人数制を活かし、その多様なニーズに個別対応する。

##### ②新規・重点事業

- 開学 30 周年を機に、クリエイティブサポートや卒業制作の在り方、アフターコロナ・ウィズコロナの対応、コミュニティスペース結や作品収蔵庫の在り方、学部・学科の在り方、バリアフリーや施設の保全改修、その他教育研究活動全般において見直しを行った上で、今後

の大学ビジョンの実現を明確にし、その実現に向け必要な施設設備の整備や人的運営体制の構築など総合基本計画を立案する。

- 卒業研究 1 および 2 について、卒業研究の標準プロセスガイドラインに基づき評価を実施するとともに、その成果や問題点を抽出した上で改善を図る。
- 令和 4 年度より新学事システム (Active Academy Advance) 及びポータルサイト (Seian Active Portal) の運用を開始し、効果だけでなく課題も出てきていることから、その改善に向け運用方法を確立するとともに、令和 5 年度より本格導入する学修成果可視化システム (Assessor) の運用方法を構築する。
- 教育職員の定年退職が暫く続くことから、安定的な運営体制を構築するために、中期的な人事計画を策定するとともに、必要な人材確保に向けて、採用条件の見直しや柔軟な採用方法、研修システムを整備する。
- 車いすを利用する学生を受け入れることから、教職員や学生に対してノーマライゼーションの理念を醸成するための研修会を実施するとともに、その支援体制を構築するとともに、円滑な支援を行う。

#### < 質保証の主な取り組み予定 >

- 4 月 PROG テスト※ (新入生対象)
- 5 月 PROG 解説会 (教学課)
- 6 月 第 1 回 FD 研修会
- 7 月 前期授業評価アンケート (教学課)
- 10 月 第 2 回 FD 研修会
- 12 月 当年度事業計画の点検・評価
- 01 月 次年度事業計画の策定
- 3 月 卒業生対象学修成果アンケート (教学課)

後期授業評価アンケート、学生実態・満足度調査

※PROG テストとは、専攻・専門に関わらず、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向 (ジェネリックスキル) を測定するアセスメントテスト。

## (2)総合領域

### ①事業方針

- ロフトワークとのつながりを活用した授業展開

これまで、総合領域では「特別講義 1」で株式会社ロフトワーク (デザイナー組織) とのオープンコラボレーションを通じてコトのデザインの学びを進めてきた。今後、このノウハウを蓄積しコトのデザインの授業手法を他の科目に展開すべく検討する。

### ②新規・重点事業

- 株式会社ロフトワークとのコラボレーションを推進するため、人員体制等を整備し、本格的にこれまでの教育研究のノウハウのアーカイブ化を進める。

### ③予算

総合領域として、1,743 千円を計上。主な予算は以下のとおり。

- 総合領域科目の授業運営 【974 千円】
- 総合領域機器備品 (プリンター、液晶テレビなど) の整備及び管理 【264 千円】

○株式会社ロフトワークとのコラボレーション【500千円】

### (3)イラストレーション領域

#### ①事業方針

- 4 コース制移行と増定員対策に向けた授業環境整備計画  
4 コース制がスタートするため、コース展開後の増定員も想定した授業環境を整備する。
- イラストレーション領域のブランド化  
ブランド化の一環としてショールームを整備し募対効果と教育効果を高める。
- スムーズな教員世代交代のための研究室の検討  
令和7～8年の2年間に主力教員4名が定年を迎えるため、世代交代を円滑に成し遂げる必要がある。そのための体制づくりとして人材の増減にフレキシブルに対応でき意思疎通の取りやすいスタッフ環境を検討する。

#### ②新規・重点事業

- 1年次科目の教員体制強化  
4コース制の1期生入学と1年次科目の開講。基礎造形実習は教員2人担当制で指導し、教育の充実を図る。
- 30名規模の実習室の確保  
現状では、教員やアシスタントを増やしても教室の収容人数がボトルネックとなり時間割が組めず増定員が実現できなかったため、令和6年度からの共用に向け、施設の再編成を行い30名規模の実習室を8室整備する。
- 常設ショールームの設置  
C棟1Fに常設ショールーム設置することで、オープンキャンパスや成安ウォッチングなどでの募対効果を強化する。在学生に対しても、参考作品が常時身近にある環境を提供することで探究心やモチベーションの向上をめざす。具体的にはC棟102とC棟105の壁を撤去しワンルームにするとともに、C棟108に収納スペースを確保する。令和6年度から供用予定。
- イラストレーション領域研究室を専任ブースとオープンスペース化し、専任、特任、非常勤講師、助手、アシスタントがコミュニケーションを密にしてフレキシブルに対応できるように研究室の整備を検討する。

#### ③予算

- イラストレーション領域として、12,419千円を計上。主な予算は以下のとおり。
- イラストレーション領域科目の授業運営【6,092千円】
  - イラストレーション領域機器備品（PC、タブレットなど）の整備及び管理【2,178千円】
  - イラストレーション実習室の整備【4,149千円】
  - 常設ショールームの整備【5,643千円】※総務課で予算計上。

### (4)美術領域

#### ①事業方針

- 制作環境の改善

現代アートコースは2年～4年までが2部屋に分かれて実習室としているが、各部屋で学年がまたがり授業や制作環境として問題があるため改善を行う。

## ②新規・重点事業

○授業スケジュールを見直し、J棟102デッサン室を4年生の実習室として転用するため、整備を図る。

## ③予算

美術領域として、4,015千円を計上。主な予算は以下のとおり。

○美術領域科目の授業運営【3,672千円】

○美術領域機器備品（PC、ソフトなど）の整備及び管理【343千円】

## (5)情報デザイン領域

### ①事業方針

○メディアの変化に対応した機材計画

社会のメディア環境の変化に伴って情報デザインの教育内容をアップデートし続ける必要があり、情報技術の動向を見極めて機材計画を立てるとともにコース横断的な学びを領域のアピールポイントとする。

○複合的なメディア表現を実践できる教育体制の構築

将来的には、現在よりもさらにコース間の壁を取り払い、さまざまなメディアを複合的に用いた表現の研究・教育を目指す。

○受け入れ定員増を見据えた環境整備

受け入れ定員を増やす場合のボトルネックとなる1年実習室の収容定員を上げる。

### ②新規・重点事業

○新たな研究対象分野の一例として仮想空間におけるデザイン表現があげられるが、XR（クロスリアリティ技術\*）を用いた研究・教育の実践には貸与PCでは対応できず、ハイスペックなコンピュータやXR用デバイスなどの機材導入が必要となる。今後、実現性を確認しながらこれらの機材を検討し教育研究のアップデートを行う。

\* XR（クロスリアリティ）は仮想世界のものを知覚できるようにする技術で、VR(仮想現実)やAR(拡張現実)、MR(複合現実)の総称

○学生が複合的なメディア表現を実践できるように、写真・映像分野における専門知識や経験を有する教員の配置は不可欠で、引き続き多様な横断的指導が行える人材の確保をめざす。

○情報デザインでは、教育における機材の比重が高く反面、教室環境は最低限に押さえている。2～4年ではコースの実習室を持たずに、フリーアドレスで作業スペースを確保しているためコースごとの学生数の増減にも対応できているが、1年生の実習室は受け入れ増のボトルネックとなっている。そこで、1年実習室の机をより小型のものに置き換えることで54名の収容を可能にする。

### ③予算

情報デザイン領域として、4,332千円を計上。主な予算は以下のとおり。

○情報デザイン領域科目の授業運営【3,858千円】

○情報デザイン領域機器備品（PC、マイコンなど）の整備及び管理【474千円】

## (6)空間デザイン領域

### ①事業方針

- 空間デザイン領域における作業施設の安全確保と状況把握を強化する。  
空間デザインでは実物製作が不可欠でコースごとに様々な作業施設を運営しているが、少数の教員、助教とアシスタントでも状況把握が行えるようモニタリングシステムの導入を検討する。
- 作業スペース不足の改善検討  
空間デザインコンピュータ室（G102）の廃止後スペースの有効活用を考える

### ②新規・重点事業

- モデリング室や染色室、機織、素材庫、各演習室など広範囲に位置する施設に対して、合同研究室の教員やスタッフが安全確認と使用状況の把握がこれまで困難であったため、モニタリングシステムを導入し、スタッフ業務の効率化を図る。
- 椅子を実測するプロダクトデザインコースの演習授業は、日本はもとより世界中のデザイン学校で行われているスタンダードな科目であるが、広い壁が必要かつ計測のため椅子をセットすると最後まで動かすことが出来ない問題点があり、これまでも他の授業の妨げとなり問題であった。一方空間デザインコンピュータ室は窓がなく、一般教室としては不適切で、展示台等の什器置き場を兼ねている。そこで、二足制で埃の少ない利点を活かして、作品撮影、椅子実測授業、照明シミュレーションおよび什器保管の用途としての活用を検討する。

### ③予算

空間デザイン領域として、2,760千円を計上。主な予算は以下のとおり。

- 空間デザイン領域科目の授業運営【2,471千円】
- 空間デザイン領域複合機の管理【289千円】

## (7)地域実践領域

### ①事業方針

- 学びの雛形の完成とプロモーション活動の実施  
地域実践領域は、2023年度に4年生17名、3年生10名という人数となり、ようやく実質的な完成年度を迎えることになる。3年次の長期インターンシップの成果、学生たちの満足度や、地域での授業外での活動も盛んとなり、「学びの雛形」が揃いつつあるため、Webサイト十分に活かしながらプロモーションができる方法を積極的に検討する。

### ②新規・重点事業

- 令和5年度の4年生が様々な結果を出しつつある中、それらをこれまで見えにくかった地域実践領域の本質を「学びの雛形」として可視化しアーカイブ化、様々なメディアを用いてプロモーションを行う。

### ③予算

地域実践領域として、2,062千円を計上。主な予算は以下のとおり

- 地域実践領域科目の授業運営（長期インターンシップ謝金など）【1,755千円】
- 地域実践領域機器備品（PC、フィールドワーク用自転車等）の整備及び管理【307千円】

## (8)共通教育センター

### ①事業方針

- 初年次教育カリキュラムと運用環境の見直し  
現行カリキュラム制定以後の教育を取り巻く環境と入学生の資質の変化を見極めて、それらに対応した初年次カリキュラムの調整改善と設備の整備を行う。

### ②新規・重点事業

- スタディースキルについて、2年次のコミュニティデザイン概論への下地作りとして、協働スキルと絵や図を多用した思考スキルの修得をめざす。実施にあたり、チームティーチング体制を整え、デジタルツール「Miro\*」を用いたグループワーク手法を導入する。
- 初年次教育で使用する教員用パソコン（貸与パソコンと同等）を10台準備し、講義室におけるコンピュータを駆使した授業に対応する。コンピュータ教育の授業計画を立てることができる常勤教員を配置しその他を非常勤教員で運用する体制を整える。
- 「就職に強い大学」を実現、維持するためにキャリア教育を見直し、キャリアデザイン概論をアップデートする。
- 変化する学生の資質と留学生の増加に対応するため、大学入門のアップデートを行う。
- 令和5年度に認定科目から素点評価科目に移行するプロジェクト科目の運用上の問題点を明らかにし円滑な運用をめざす。

※「Miro」とは、リモートでブレインストーミングなどの共同作業ができるオンラインホワイトボードサービス。

### ③予算

共通教育センターとして、11,620千円を計上。主な予算は以下のとおり

- 初年次教育の科目（ファウンデーション実習・スタディスキル実習・大学入門等）【790千円】
- キャリアデザイン科目【1,910千円】
- 地域貢献・プロジェクト科目【59千円】
- 共通教育センターの運営【930千円】
- 博物館学芸員資格科目の授業運営【1,479千円】
- 教職課程科目の授業運営【1,915千円】

## 2 事務局

### (1)入学広報課

#### ①事業方針

- 令和6年度の入学者獲得に向けた募集対策と入試執行を行う。また中長期経営計画の内容を踏まえ、対面広報を中心としてきた募集対策だけでなく、様々なネットワークサービスを活用した間接広報を強化できる様、広報媒体の見直し、業務内容や運営体制の再構築を行う。また現入試の内容を検証し、今後の入試について検討する。
- 安定的な募集確保のための、広報のDX推進や新たな定員増に向けた検討をはじめ。教育連携推進の在り方を再構築し、効果的な実施ができるよう検討する。
- 教育連携において、グローバル化、多様化を更に推進するとともに、募集活動にも効果的な事業となることを目指す。

## ②新規・重点事業

### <入学試験関係>

- 「今後の入学者の在り方を検討する会」からの答申を基に、高等学校新教育課程や定員増を踏まえつつ、AP（アドミッション・ポリシー）と初年次教育の関係を検証した上で、今後の入学者選抜試験制度を検討する。
- 入試執行の効率化とミス防止、志願者の利便性向上を図るため、インターネット出願システムを導入する。

### <広報関係>

- 本学ウェブサイトにおける領域紹介コンテンツを充実させる。本学ウェブサイトやSNSから接触して来た受験生へのプロモーションを強化するとともに、今後の大学案内（紙媒体）のあり方について検討する。
- 本学ウェブサイト上での領域紹介や紙媒体からの移行など積極的なデジタルコンテンツを利用した募集活動の構築を行う。

### <募集営業関係>

- イベントや営業活動が対面実施に戻りつつある中で、学内で実施するオープンキャンパスや連携授業などへの参加促進のため、団体バス動員のプロモーションを強化する。
- 高校生からの要望が多いイラストレーション分野の教育連携プログラムを新たに開発する。

## ③主な事業

### <入試日程>

予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要とされ、国策として、高大接続改革が推進されている状況を踏まえ、3つのポリシーに沿った上で、学力の3要素を確実に評価する入学者選抜試験を、以下のとおり実施する。

#### ○総合選抜入試

- 1期 特待生<面接方式> : 9月3日(日) <体験授業方式> : 9月4日(月)
- 2期 <体験授業方式> : 9月30日(土)
- 3期 <面接方式> : 11月12日(日)
- 4期 特待生<実技方式> : 11月18日(土)
- 5期 <面接方式> : 12月2日(土)

※地域実践領域志願者のみ、12月3日(日)にオンライン面接も実施。

#### ○学校推薦選抜入試<面接方式> : 11月12日(日)

#### ○一般選抜入試

- 1期 <面接方式> : 2月3日(土) <実技方式> : 2月4日(日)
- 1期 特待生 所得制限型<大学共通テスト利用方式> ※独自試験は実施せず。
- 1期 特待生 所得制限型<実技方式> : 2月4日(日)
- 2期 <面接方式> <実技方式> : 2月23日(金・祝)
- 2期 大学共通テスト利用方式 ※独自試験はなし。
- 3期 大学共通テスト利用方式 ※独自試験はなし。

#### ○特別総合選抜入試

- 1期 9月10日(日) / 2期 10月1日(日) / 3期 11月12日(日)

#### ○2・3年次編入試

- 1期 12月2日(土) / 2期 2月3日(土)

- 大学共通テスト  
1月13日(土) / 14日(日) ※滋賀医科大学と共同実施。
- その他の試験  
地域実践領域のみ、総合選抜入試3期、5期、一般選抜入試1期及び2期でオンライン面接入試を実施。
- <募集対策関連の主な事業>
  - オープンキャンパス  
・4月16日(日) ・6月4日(日) ・7月23日(日) ・8月27日(日)
  - SEIAN WATCHING (大学見学会)  
・5月14日(日) ・7月2日(日) ・8月6日(日)  
・9月24日(日) ・10月15日(日) ・11月5日(日)  
・12月10日(日) ・1月28日(日) ・3月10日(日)
  - その他の募集対策事業  
・卒展 WATCHING (卒業制作展見学会) ※日程は未定。  
・成安デッサン模試 : 7月22日(土) / 3月17日(日)  
・中学生対象オープンキャンパス : 8月26日(日)

#### ④予算

入学広報課として、56,335千円を計上。主な予算は以下のとおり。

- 問題やモチーフ、地方会場の借用など入学試験に関わる費用【2,800千円】
- 大学案内等印刷物やウェブサイトなどの制作費用【27,860千円】
- オープンキャンパスの開催や大学説明会等に関わる費用【8,870千円】
- 媒体の掲載や印刷物等の発送などに関わる費用【1,840千円】
- インターネット出願システム導入【4,500千円】

## (2)教学課

### ①事業方針

- 高等教育就学支援新制度や新型コロナウイルス感染症、外国人留学生の増加など多様な入学生に対して、これまで行ってきた学生支援の在り方を見直し、新たな支援体制を構築する。
- 令和4年度より入学者の多様化などを考慮し、初年次教育の見直しを図っており、令和5年度よりプロジェクト科目とスタディスキル実習をリニューアルするが、両科目以外の初年次教育科目についても見直しを図る。

### ②新規・重点事業

- 新学事システムを導入したことにより、学生自身で成績確認や履修登録などの手続きがウェブ上で可能となったことから、従来の新学期ガイダンスの在り方を見直す。
- 令和4年度実施の1年次の進級判定や令和5年度実施の授業出席状況の共有に伴い、履修指導や就学支援方法の検討を行い新たな履修指導を実施し、令和7年度以降の離学率を減少させる。
- 既存の学生会組織の活動について在り方について検討する。
- 学内奨学金の在り方について再検討を行うとともに、入学後の給付型奨学金や授業料減免制度の在り方について検討を行い、経済的理由による離学率を減少させる。
- 令和5年度よりプロジェクト科目とスタディスキル実習を見直したことから、その成果や問



題点を抽出した上で改善を図るとともに、他の初年次教育科目についても令和6年度からの実施に向けて見直しを行う。

- 遠隔授業や課題提出などに有用なオンライン上の学習管理ツール(Google Classroom など)が教員個々で多様化していることから、本学における学習管理ルールの標準パッケージを構築する。
- 卒業制作展における賞の在り方について、今日的な状況を踏まえ、領域主任会議において、賞の目的や基準、本数などの要項を再設定する。

### ③主な教学日程

- 4月 入学式(3日)、新入生ガイダンス(4日～12日)、新入生健康診断(7日)  
前期授業開始(17日)
- 5月 教職課程教育実習
- 8月 前期授業終了(7日)、集中講義期間(22日～25日、28日～31日)  
学芸員課程博物館実習
- 9月 前期保留該当者試験(1日)、集中講義期間(4日～8日)  
在学生後期ガイダンス(11日～14日)、前期卒業証書・学位記授与式(15日)  
大学祭(23日・24日)、後期授業開始(28日)
- 1月 後期授業終了(27日)、卒業制作展(29日～2月12日)
- 2月 後期保留該当者試験(19日)、  
後期集中講義期間(13日～15日、19日～22日、26日～29日、27日～28日)  
教員免許状一括申請
- 3月 後期集中講義期間(4日～8日)  
卒業証書・学位記授与式(8日)、在学生新年度ガイダンス・健康診断(18日～22日)

### ④予算

教学課として、36,777千円を計上。主な予算は以下のとおり。

- 学生の健康診断の実施【2,853千円】
- 学生相談室、保健センターの運営【4,250千円】
- 国立美術館キャンパスメンバーズ(優待)への加入など【268千円】
- 卒業制作展の開催【10,200千円】
- 大学祭の支援【1,400千円】
- 領域交流会の開催【496千円】
- 卒業アルバム・作品集の制作【5,760千円】
- 留学生の派遣に関する事業【840千円】
- 新学事システムのカスタマイズ【1,860千円】

## (3)クリエイティブサポート事務課

### ①事業方針

制作・研究活動のサポートサービスを最大限に行うことを目的に、「人・もの・場所」の整備を効率的に図っていく。令和4年度のクリエイティブサポート整備検討委員会からの答申を受けて、ラボの集約も視野にいれつつ、今後のクリエイティブサポートの充実に向け、人員体制や施設設備の整備などを検討する。

## ②新規・重点事業

- 附属図書館において、令和3年度よりオンラインで実施している学生選書事業について、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、効果を重視し書店の実店舗で選書作業を実施する。
- 現情報デザインコンピュータ室1を映像編集コンピュータ室（仮称）として再整備し、PC端末をApple社のハイスペック機であるMac Studioにリプレイスする。
- ファブリケーションcommonsで運用している光造形3Dプリンタについて、後継機種にリプレイスする。

## ③主な事業

- 附属図書館の開館時間  
毎週月曜日～金曜日の10:15～19:30  
※授業期間以外の短縮開館時間は10:00～17:00。蔵書点検時期は閉館。
- 蔵書点検  
2月下旬から3月上旬にかけての2週間程度
- 情報メディアセンター
  - ・開館日時は毎週月曜日～金曜日の10:15～19:30  
※夏期休暇ならびに春季休暇中は施設および機材のメンテナンスが主な業務となるため、開館は週1日の13:00～15:00までの短縮開館。
- ラボ（ファブリケーションcommons・造形ラボ・鉄工ラボ・版画ラボ）
  - ・開室時間は毎週月曜日～金曜日の12:00～19:00。  
※時期により10:00～17:00の短縮開館。
  - ・ワークショップ  
夏期ならびに春期休暇中に各ラボで時期を合わせて開催予定。日程は未定。  
また学生のニーズに合わせ随時開催予定。
- ライセンス講習会の実施
  - ・情報メディアセンター  
写真スタジオ①(白)Fライセンス、映像スタジオFライセンス、大型出力Fライセンスのライセンス講習会をそれぞれ前期後期に各1回開催。
  - ・造形ラボ  
木工具ライセンス、塗装ブースライセンス講習会を前期後期に複数回開催。
- 機材メンテナンス・機器導入・工事の時期  
情報メディアセンターでは、夏期休暇並びに春期休暇の期間を利用し、施設と機材のメンテナンスやコンピュータ等の機器の入換作業を実施。また、令和5年度末に令和6年度に向けたコンピュータ室の整備（主に移転）を行う。  
各ラボの施設設備は、日常のメンテナンスに加え、年に一回程度、専門業者による保守作業を実施する。

## ④予算

- クリエイティブサポート事務課の予算として、40,305千円を計上。主な予算は以下のとおり。
- 版画ラボの運営【691千円】
  - 鉄工ラボの運営【490千円】
  - 造形ラボの運営【460千円】

- 在学生向けワークショップ、ライセンス講習会の開催など【620千円】
- 鉄工ラボ設備（ホイスト、コンプレッサ、シャーリング、プレス機）の保守【532千円】
- 造形ラボ設備（屋外集塵機、パネルソー、ベビコン）の保守【297千円】
- 情報メディアセンター及びファブ리케이션コモンズの運営【5,814千円】
- 各コンピュータールーム、スタジオ等の保守及び機器の整備【1,757千円】
- ノートパソコン無償貸与制度の運用【23,165千円】
- 附属図書館の図書等の購入【4,227千円】
- 附属図書館のシステム保守及び端末の更新【2,012千円】

#### (4)キャリアサポートセンター事務課

##### ①事業方針

- 徹底した少人数教育による、実践力と社会性を重視したキャリアデザインカリキュラムを構築。チームワークやコミュニケーションを重視しながら社会の現場を想定し、問題発見力、解決能力を養う授業を展開する。
- 学生一人ひとりの希望進路や企業、試験などの情報を把握し、さまざまなサポート講座や、きめ細やかな個別指導を徹底する。

##### ②新規・重点事業

- キャリアサポートセンター長を中心に、今後のキャリアサポートセンターのあり方を検討する。
- キャリアデザイン科目について、開講科目数が多く内容が多岐にわたっていたことから、授業科目と内容を精査し、再構築する。
- キャリアデザイン科目担当者とキャリアサポートセンター事務課との連携を強化し、キャリアデザイン科目のシラバス内容を社会的な要請に即したものにアップデートする。
- 就職や進路に対する学生の意識を早期から醸成するため、2年生対象のショート面談を始める。

##### ③主な事業

- キャリアデザイン科目
  - ・前期：キャリアデザイン概論1、インターンシップA・B  
就業力育成論1・2・3、就業力育成演習C
  - ・後期：キャリアデザイン概論2、就業力育成演習B・D
- 主な就活イベント
  - 3年生・4年生対象ショート面談（3月・9月）、2年生対象ショート面談（9月）、
  - 就職マッチング会（6月～10月）、合同企業研究会（1月～3月）、会社説明会（通期）、
  - 就活サポート講座（通期）

##### ④予算

- キャリアサポートセンター事務課の予算として、2,176千円を計上。主な予算は以下のとおり。
- インターンシップの参加や遠距離の就職活動を行う学生への補助など【395千円】
- 就活サポート講座や学内会社説明会に関わる費用【720千円】

- 求人票の発送や会社訪問などに求人先開拓に関わる費用【585千円】
- 履歴書や就職関連書籍などの購入やポートフォリオの購入費用など【256千円】
- 就職サポーター制度の運営に関わる費用【80千円】

## (5)研究・連携支援課

### ①事業方針

未来社会デザイン共創機構、附属近江学研究所、キャンパスが美術館、地域連携推進センターを通じて、教員（研究者）・学生の研究活動、地域との連携活動を展開し、大学の基本理念「芸術による社会への貢献」の具現化を推進していく。  
また、これらの活動を効果的に社会に発信していくことで、本学への認知が深まりブランド力の向上につなげる。

### ②新規・重点事業

<全体>

- 特に SNS を活用して活動を学内外へさらに発信していく。

<未来社会デザイン共創機構・地域連携推進センター>

- 「コミュニティスペース結」を11月にリニューアルオープンする。
- 本学が主体性を発揮できる連携活動をさらに推進する。

<附属近江学研究所>

- 開学30周年記念事業 近江学研究所 特別公開講座を開催する。

日時・場所：5月13日（土）和邇文化センター

講師：今森光彦客員教授

- 令和5年度から7年度までの3か年について、「近江のコミュニティ『惣・座・講』研究プロジェクト」を推進する。

<キャンパスが美術館>

- 「開学30周年記念事業 セイアンアーツアテンション 16」を開催する。
- 令和6年度開催「卒業制作展2025」の計画・運営にあたり実行委員会事務局を担えるようスタッフを整備する。
- 学生への作品展示にかかるワークショップを試行的に開催する。
- 所蔵作品の計画的な保全をおこなう。

### ③主な事業

<未来社会デザイン共創機構>

- 連携プロジェクト（令和5年2月17日現在）

◇前期プロジェクト（4月～9月）

- ・おもちゃのワークショップ（大津市歴史博物館）
- ・プラネタリウム星座物語コンテンツ制作（大津市科学館）
- ・ちま吉プロジェクト（大津祭ちま吉協議会）

◇通期プロジェクト（4月～3月）

- ・ムダモルフオーゼプロジェクト（阪急うめだ本店）
- ・JR湖西線アートプロジェクト（JR西日本）
- ・光のアートプロジェクト（琵琶湖汽船）

- 学生支援事業

◇SEIAN ドリームプロジェクト

研究活動の活性化を目的として、「SEIAN ドリームプロジェクト(学生特別研究助成金)」

を実施する。本学の学生から枠にとらわれない独創性豊かな研究・制作プロジェクトを募集。採択となったプロジェクトには、総額 100 万円の研究・制作資金の助成支援を行うとともに相談や指導をはじめ、各種外部団体やスポンサー企業とのマッチングなどの活動支援を行う。

- ・応募期間：4月～6月
- ・支援期間：8月～翌年2月
- ・応募資格：1～4年生および研究生

◇seian チャレンジ

本学の基本理念「芸術による社会への貢献」を具現化する学生の自主的・主体的な地域貢献活動を支援する制度。1件あたり5万円以内の補助金を支援する。予算額(30万円)の上限に達した時点で募集終了。

- ・募集期間：7月～12月
- ・支援期間：7月～翌年2月
- ・応募資格：本学学生のみで構成された団体または学生個人

○研究成果の発表や機構運営

学内勉強会の開催、大学紀要や機構の研究・連携活動事例集の発行、大学ウェブサイトでの情報発信等。

○研究費事業

◇特別研究助成

- ・募集期間：令和5年4月3日(月)～5月15日(月)
- ・採択日：6月中旬
- ・採択数：1～3件程度

○科学研究費の運営・管理

◇採択済

- ・アートによる地域再生の実践的検証  
～障害者アートと地域アートの未来像を探る試み～ (令和2年～令和5年)
- ・ジェンダーインクルーシブなプログラミング教育教材の開発と普及  
(令和3年～令和6年)

◇申請中：1件

○研究者の履歴・業績の管理と活用

○研究活動の体制整備

◇公的研究費の適正使用の推進

- ・研究者やその支援に携わる事務職員を対象として、コンプライアンス教育を実施する(令和5年5月)。
- ・コンプライアンスの啓発のため、研究活動の学内広報誌「NEWS LETTER」を年4回程度発行し、教職員等に配布する。

◇研究倫理教育の推進

- ・新規採用の研究者や新たに支援に携わる事務職員を対象に研修を実施する(令和5年5月)。

<附属近江学研究所>

令和5年度の公開講座は対面方式を復活させるが、会員限定講座はオンデマンド方式を継続する。

○公開講座

- ◇成安造形大学開学30周年記念事業 附属近江学研究所特別公開講座

「禍 転じて ～禍とともに暮らす 自然災害と里山の再生～」

日 時：令和5年5月13日（土）

場 所：和邇文化センター

講 師：今森光彦（写真家、成安造形大学客員教授、附属近江学研究所参与）

◇公開講座

講座名	講師	日程
近江―受け継ぐかたち 「町衆文化の心意気 大津祭の今とこれから」	湯立山保存会 加藤賢治	令和5年6月10日（土）
近江―未来社会のかたち 「“MUSUBU 地図”が伝えること」	金再奎、石川亮	令和5年9月30日（土）

◇写生会「淡海の夢 2023」

・令和5年 5月27日（土） 於：大津・坂本

・令和5年10月14日（土） 於：近江八幡・八幡堀

○近江学フォーラム

◇会員限定講座（オンデマンド講座＋講座映像試聴会）

特集テーマ	講座名	講師	動画配信期間
「禍 転じて」	A 「近江における厄除け 元三大師信仰」	福井 智英 加藤 賢治	6月 6日（火）～ 6月20日（火）
	B 「大津絵と疱瘡絵 近江発、 禍への絵画的対抗手段」	横谷賢一郎	7月 4日（火）～ 7月18日（火）
	C 「かわそ信仰と女性」	對馬佳菜子	10月24日（火）～11月 7日（火）
	D 「疫病と向き合う ―祈りから医術へ―」	岡井 健司	11月21日（火）～12月 5日（火）
	E 「長浜の天正大地震」	畑中 英二	1月 9日（火）～ 1月23日（火）

◇現地研修

「紫式部ゆかりの古刹 石山寺を歩く」

日時：令和5年10月28日（土）

○淡海の夢 風景展

公募期間：令和5年8月～10月

展覧会開催期間：令和5年11月～12月頃

◇文化誌「近江学」第15号・「近江学研究所紀要」の発行

<キャンパスが美術館>

○企画展の企画決定プロセス

企画展の内容は合議制とし、通例と異なる特徴的なプロセスとしている。その企画を練るポリシーは次のとおり。

- ①集客よりも専門性を活かした実験的、先進的なテーマや展示を扱っていく。
- ②学生も積極的に関わっていけるような内容を目指す。
- ③卒業生へのバックアップを意識する。
- ④地域との関わりを積極的に考えていく。

○企画展の開催

- ◇ SELECTION : 4月 3日（月）～ 4月29日（土）
- ◇ 6月企画展「観察者のまなざし（仮）」 : 6月 2日（金）～ 7月 1日（土）
- ◇ コレクション展（予定） : 9月 1日（金）～ 9月24日（日）

◇ 開学 30 周年記念展覧会 2023 秋の芸術月間

セイアンアーツアテンション 16 「Error of Real (仮称)」

: 10 月 13 日 (金) ~ 11 月 11 日 (土)

○学生展 (年間約 35 展) や領域展 (年間約 34 展) のコーディネート

○教育連携推進センター・附属近江学研究所と連携した展覧会 (年間 3 展) のコーディネート

#### ④予算

研究・連携支援課の予算として、千円を計上。主な予算は以下のとおり。

○プロジェクト科目等の運営【249 千円】

○学生支援事業 (SEIAN ドリームプロジェクト seian チャレンジ) 費【1,450 千円】

○特別研究助成費【1,000 千円】

○受託事業費【2,638 千円】

○コミュニティスペース結のリニューアル【1,750 千円】

○附属近江学研究所の行事 (公開講座・近江学フォーラムなど) 運営【1,991 千円】

○附属近江学研究所の研究活動費【3,670 千円】

○キャンパスが美術館運営費【7,939 千円】

#### (6)総務課

##### ①事業方針

総務課は、入学広報課や教学課といったフロントオフィスを支えるバックオフィスと言える。バックオフィス業務の効率化を鈍らせる課題として「人材不足」や「アナログ中心の業務」「属人化の蔓延」などがあり、そうした課題の解決に取り組む。そのためには、少ないリソースで業務の正確性とスピードを追求するための DX による効率化が欠かせない。こうしたことからクラウドサービスの活用をした「デジタル化による業務の効率化」を進める。特に DX の基礎データとなる「人事労務のペーパーレス化」「年末調整のペーパーレス化」や「電子帳簿保存法対応」などをクラウドサービスを活用し、総務課が抱える課題解決に務める。

##### ②新規・重点事業

○人事管理システム、年末調整システムの導入

雇用契約や入社手続きをペーパーレスで完結。併せて従業員情報も自動で蓄積される。さらに年末調整やWeb給与明細、様々な労務手続きにもデジタル化する。

○電子帳簿保存法/インボイス制度対応システムの導入

改正電子帳簿保存法に対応したシステムを導入。あらゆる国税関係書類を検索要件に必要な取引年月日・金額・取引先を正確にデータ化した上で保管する。

##### ③主な事業

<総務>

○入学式

・日 時：令和 5 年 4 月 3 日 (月) 12 時～

・場 所：成安造形大学 成安体育館

○卒業証書・学位記授与式

・日 時：令和 6 年 3 月 8 日 (金) 12 時～

・場 所：成安造形大学 成安体育館

※前期卒業者は令和5年9月15日（金）に聚英ホールで挙行。

- 教職員対象健康診断・ストレスチェック
  - ・日 時：令和5年4月7日（金） 終日
  - ・会 場：成安造形大学
- 成安造形大学教育後援会総会
  - ・日 時：令和5年6月（予定）
- 成安造形大学同窓会「かいつぶり」総会
  - ・日 時：令和5年6月（予定）
- 永年勤続表彰
  - ・対 象：勤続30年2名、勤続20年6名。
  - ・日 時：学園創立記念日である例年7月17日が表彰日となるが、当年度は祝日となることから未定。
- 成安ホームカミングデー 2023 30th anniversary
  - ・日 時：令和5年11月11日（土曜日）
  - ・会 場：成安造形大学 多目的スペース結・芝生グラウンド
- 退任記念講演会・展覧会
  - ・日 時：令和6年3月（予定）
- 事務機器及び消耗品の管理
  - ・コピー用紙など消耗品の発注管理
  - ・ワークルームに設置しているコピー機やプリンターの維持管理
- 外部団体への施設貸出
  - ◇進研V模試
    - ・日 時：令和5年11月3日（金・祝）、令和6年1月7日（日）
    - ・主 催：(社)大阪進研
  - ◇ファイナンシャル・プランニング技能検定
    - ・日 時：令和5年5月28日（日）、令和6年1月28日（日）
    - ・主 催：(社)金融財政事情研究会
  - ◇その他、そろばん塾等への定期的な貸し出し

#### <経理>

- 経費支払い業務
  - 毎月2回（10日・25日）の支払い。但し、8月と1月の10日支払いはなし。
- 役員・教職員給与・賞与支払い業務
  - 給与：毎月20日 賞与：夏季7月1日、冬季12月10日
- 公認会計士会計監査
  - 前年度決算5月、中間監査11月、四半期監査7月・2月

#### <施設・環境整備>

- 施設内の定期清掃
  - ・授業期間中は講義室及び実習室は2週間を1クールとし、ローテーションで実施。トイレは毎日実施。授業期間外は不定期。
  - ・夏期と春期の長期休業期間に特別清掃（窓・床）。
- 学内警備



・全日、7時30分から23時は有人警備とし、それ以外の時間は機械警備。

○施設設備の保守

◇消防設備の定期点検

- ・総合点検：令和5年8月12日（土）
- ・機器点検：令和6年2月17日（土）

◇電気設備の定期点検

- ・高圧受変電設備の定期点検（2カ月に1回）

◇電動設備機器の定期点検

- ・聚英ホール電動観覧席の保守点検：令和5年8月
- ・聚英館エレベーターの定期点検  
令和5年5月・8月・11月／令和6年2月
- ・食堂棟自動扉の定期点検  
年2回（不定期）

◇特殊建築物定期調査

- ・対象建物：本館棟、実習I棟
- ・調査時期：令和5年5月頃予定

○施設設備の改修工事

◇換気扇修繕工事（随時）

◇建物防水工事

- ・対象建物：実習G棟、H棟
- ・工事期間：令和5年8月（1週間程度）

◇照明LED工事

- ・対象建物：成安体育館
- ・工事期間：令和5年8月（1週間程度）

◇イラストレーション領域ショールーム整備工事

- ・対象建物：実習C棟
- ・工事期間：令和6年3月（2週間程度）

◇放送設備の定期点検

- ・年1回（不定期）

○廃棄物の処理

◇一般廃棄物処理：毎週月・水・金曜日

◇食品プラ容器処理：月2回程度

◇産業廃棄物処理他：随時

○植栽の維持管理

◇敷地内・法面草刈り：年5回（4月・6月・7月・8月10月）

◇高木・中木の剪定：不定期

○スクールバスの運行

学生や教職員の通学・通勤における安全性を確保するため、路線バス利用も含め、以下のとおりスクールバスを運行する。

- ・運行日数：年間251日（うち路線バス利用で運用する日は78日）
- ・運行時間：8時～22時（土曜日は21時）
- ・その他、大規模イベント開催時は臨時運行。

#### ④予算

総務課（大学共通を含む）の予算として、273,992千円を計上。主な予算は以下のとおり。

- 式典等行事の運営費【2,790千円】
- 施設設備の保守及び修繕費用【11,489千円】
- 廃棄物の処理費用【2,382千円】
- 植栽の維持管理費用【4,265千円】
- 給与計算及び経理業務全般【18,535千円】
- 教職員の健康診断及びストレスチェックの実施【2,230千円】
- スクールバスの運行費用【13,188千円】
- 警備費用【8,827千円】
- 光熱水・通信費【43,780千円】
- 日常・定期清掃【12,361千円】
- 特殊建築物定期調査【1,540千円】
- 施設設備の改修工事【26,059千円】

## ■ 成安幼稚園

### 【1】基本理念・教育の目的・教育目標

#### 1 成安幼稚園の基本理念

豊かな創造力と健やかな体、たくましい自立心を育てる。

本園は、「子どもの生活は遊びながら…」が保育の基本であると考えています。偏った英才教育では、心は見失われてしまいます。

本園は、長い伝統を誇る京都成安学園の建学の精神「成安」、校訓「誠と熱」の信念を柱とし遊びを中心とした総合的保育で、創造力の豊かな心と健やかな体を育てます。

本園は、現代社会に失われつつあるものを育てることが大切であると考えています。

#### 2 成安幼稚園の教育の目的

- (1) 健康・安全で幸福な生活のために必要な基本的生活習慣を養うとともに、身体諸機能の調和と発達を図る。
- (2) 集団生活を経験し、協調性、自立及び自律の精神の芽生えを養う。
- (3) 社会の様々なものごとに対し、正しい理解と態度の芽生えを養う。
- (4) 人との関わりの中で、意思伝達能力を養い、信頼関係を築く。
- (5) 経験をとおして感性を育て、創造力を豊かにし表現する力を養う。

#### 3 成安幼稚園の教育目標

一人ひとりの子どもを大切にして、基本理念に基づいた保育を行い、心豊かな子どもに育てます。

### 【2】幼稚園 中長期経営計画

- (1) 成安幼稚園の運営方針
- (2) 社会に対する基本姿勢
- (3) 満3歳児保育の開始とクラス編成の見直し
- (4) 保護者や地域社会からの信頼と協力を得るための正確な情報の発信
- (5) 保育教育の質の向上
- (6) 人材マネジメントの推進と教育職員配置計画
- (7) 園児獲得目標の明確化と健全な財務規律の確立
- (8) 安全で快適な保育環境の整備
- (9) コンプライアンスの徹底とガバナンスの確立

### 【3】中長期経営計画に基づく事業計画

#### 1 成安幼稚園の運営方針

基本理念「豊かな創造力と健やかな体、たくましい自立心を育てる」に基づき、これまで3歳児以上の教育・保育を実施してきたが、令和5年度から2歳児・満3歳児保育を開始する。満3歳になるまでの2歳児を含め、1クラス25名の定員とし、教育職員3名体制でこれまで培ってきたプレ保育の実績と3歳児からの教育・保育を糧にしつつ新しい教育・保育の在り方を模索してい

くことになるが、これまでの教育内容の充実と教育職員の更なる教育力向上に努め運営する。また、幼児教育・保育の無償化は3年あまりが経過し定着しているが、昨今の世界情勢、社会状況の急激な変化により、夫婦の共働きが増加しており、お子さんをより幼少の頃からより長い時間預けることが、社会的ニーズとなってきている。無償化等の公的支援、経済的支援を考慮しつつ、預かり保育事業の拡充を図って、地域社会及び子育て支援に寄与していく方針である。

## 2 社会に対する基本姿勢

保護者の社会活動への参加を支援するため、預かり保育事業を継続し、拡充を図る。新型コロナウイルス感染症対策のため、従来の終了時間を30分短縮していたが、コロナ禍になって3年あまりが経ち、感染症法上2類相当から5類へ移行されることが見込まれること等から午後6時まで実施する。地域社会への貢献である地域の子育て支援をより充実するため、預かり保育事業の時間の拡大、就労等の特段の事情のみの預かり保育条件の見直し、預かり保育事業の体制の更なる充実、環境整備、無償化制度に呼応した対応をさらに充実させ、少子化におけるさまざまな課題の一助とする。ただし、現在実施している早朝預かり保育は利用状況も鑑み見直すことを検討する。

## 3 満3歳児保育の開始とクラス編成の見直し

- (1) 満3歳児保育（あおぐみ）、子育て支援活動2歳児保育（わかばぐみ）を1クラス教育職員3名で運営。初年度として教育・保育の環境整備を行う。
- (2) 教育職員態勢の整備の継続  
乳幼児保育経験者を更に増加するよう継続して採用活動を行い、教育職員の態勢の充実を図る。
- (3) 効果的な広報の実施  
新園舎PR映像等を使用し、満3歳児保育、2歳児保育の効果的な広報を展開する。
- (4) 満3歳児保育に入園する際に体操ズボンの半額を補助する特典を継続して実施する。

## 4 保護者や地域社会からの信頼と協力を得るための正確な情報の発信

保護者へのメール送信システムの利便性をさらに高め、より正確、簡便、迅速性を持った新システムの構築を模索する。保護者とのコミュニケーションの充実を図り、また、教育・保育活動や行事等の情報を正確かつタイムリーに発信し、保護者の信用と満足度を向上させる。また、今後、広く一般社会に本園の活動をSNS等の情報提供ツールを通じて、広く公開し活性化を図る。

## 5 保育教育の質の向上

- (1) 各年次の教育・保育目的
  - ・2歳児（わかばぐみ）・満3歳児教育・保育（あおぐみ）  
今年度から開始するため、教育環境、教育内容、教育職員体制を整え、実態を的確に把握し、柔軟にかつ乳幼児の様子をつぶさに感じとり、「あそび」を通して家庭とは異なる環境に慣れることに繋げることを目的とする。
  - ・3歳児教育・保育（あかぐみ）  
これまで培ってきた教育・保育を踏襲し、家庭から離れ、集団生活に必要な不可欠な基本的な自立、他者との関係性、決まりやルールがあることを1年を通して学び、また「あそび」から感じた感性、気づき、興味を自己のめばえに繋げることを目的にする。
  - ・4歳児教育・保育（きぐみ）

これまで培ってきた教育・保育を踏襲し、自分のできることは自分でやってみることの自立、自分の感情を自律する能力、「あそび」から感じた他者とのコミュニケーションの大切さ、楽しみを自己の成長に繋げることを目的とする。

・5歳児教育・保育（ももぐみ）

これまで培ってきた教育・保育を踏襲し、他者と自分との更なる関係性を構築し、協力、協調、意思疎通を通して喜怒哀楽等の感情を分かち合い、「あそび」から創意工夫し、新しい発想を自己の気づきに繋げることを目的とする。

・配慮の必要な園児

近年、特別な配慮を要する園児が増加傾向にある。社会の多様化とともに教育・保育も対応が求められている。継続して副担任制度を導入し、外部の臨床心理士によるカウンセリングの実施日数を倍増し、園児の様子や教育職員への支援を手厚くする。また、外部の療育施設と情報共有・連携を密にし、園児や家庭に対して更なる目配り、配慮をする。

(2) 各種行事

コロナ禍により各種行事は規模縮小や入場制限を実施してきたが、今後は状況を考慮しながら平常に戻すことをその都度検討する。行事ごとは集団で協力することや伝統や文化を学び、感動に触れあえる等貴重な教育ソースであるが、形骸化することのないよう内容や意義を見直し、より効果的な行事運営を実施する。

(3) 研修を活用した教育力の向上

教育職員の「思考力」「創造する力」を育成するため研修制度の充実を図る。コロナ禍ではあるが、徐々に対面型の研修への参加を可能とする。

(4) 特色のある教育内容

私立幼稚園の強み、併設校に芸術系大学を擁する幼稚園として、園児の自由な発想、創作意欲をさらに醸成するよう特色のある教育内容を強化する。

・大学との教育連携

大学の教育職員の協力により、教育職員の造形教育へのアドバイス、感性を養うための多角的な視点で指導を受け、教育の幅を広げる。また、直接園児へのワークショップで造形教育を実施することにより、他園との差別化を図る。今年度は年3回を予定している。

・作品展の実施

毎年11月に作品展を2日間開催する。園児が日々取り組んだ描画やデザイン画、立体作品を保育室や遊戯室に展示し、保護者への観覧の機会を設ける。コロナ禍により人数制限を行っているが、兄弟姉妹、祖父母、地域の方々などに広く開放し、成安幼稚園を知ってもらう機会とし、募集対策、ブランディングに繋げる。また、今後成安造形大学キャンパスが美術館ギャラリーでの作品展も開催し、幼大連携の更なる推進、幼稚園保護者への四年制大学への興味関心に繋げていくことも視野に入れたい。

(5) その他、外部への作品出展

公益社団法人京都府私立幼稚園連盟が主催する「かいが展」は昨年度第60回を数え、会場は京都高島屋グランドホールで行われている。本園園児も12名が出展し、好立地の条件もあり、多くの方に観覧され今後も継続して出展する。また、令和2年度から京都新聞地域版に園児の絵画作品が掲載され、昨年度は5月6日付、9月9日付、令和5年1月27日付発刊の新聞誌上に掲載された。その他京都新聞主催の「お話しを絵にする」コンクールに出品するなど、今後も継続して外部へ積極的にPRしていく。

(6) せいあん美術館幼稚園ギャラリー（仮称）の設立

2025（令和7）年には開園95周年、2030（令和12）年には開園100周年を迎えるので、新園舎を中心とした保育棟や園庭に園児の作品を常時展示し、また制作する過程を公開するな

ど広報的な魅力を発信し、特色ある唯一無二な幼稚園のブランディングを構築するため、せいあん美術館幼稚園ギャラリー（仮称）を設立し、施設・環境整備を図る。園児には自分の作った作品がより広く公表され多くの方々に観覧されることで自己の肯定感と意欲の向上に繋げる。また、広く幼稚園の教育活動を公表することで地域社会に開かれた幼稚園として募集対策に繋げる。

(7) 幼稚園小学校連携

これまでも実施してきた主に小学校教育職員との連携によるスムーズな小学生への移行をさらに連携し、園児・保護者が不安のないよう、また近隣地域で顔がみえる見守り環境が育成されるよう地域全体で子どもを育てる環境が整うことが重要である。

## 6 人材マネジメントの推進と教育職員配置計画

(1) 教育職員の将来的な人材マネジメント

今年度も教頭が不在であり、幼稚園運営・管理に偏重があるが、園長を中心に3学年の学年主任と協力し、教育・保育の質を保証するべく管理・運営を行う。今後、中堅の教育職員に対しては、将来的に管理・運営を担える人材の育成を図る。また、比較的若年層の教育職員には、今まで培ってきた教育・保育を踏まえつつも、先鋭的かつ現代的な要素を取り入れ多様性を重視した教育・保育を受容し、定着率を向上させ組織全体で質の高い意識醸成を図る。

(2) 教育職員の配置

各学年各クラス定員25名につき担任1名を基本とし、各学年に副担任を配する。ただし、人員には限りがあり、日々人手が必要になるクラスは不確定であるので、柔軟に非常勤講師を含む全教育職員の協力体制を構築する。

## 7 園児獲得目標の明確化と健全な財務規律の確立

(1) 入園者の安定的な確保

幼稚園という性質上、近隣地域及び送迎バス運行範囲からの入園者が大半を占める。その地域性や住環境に大きく影響を受けるものであるが、目標とする入園者を安定的に確保できるよう教育・保育の充実、発展はもとより、更に知名度を向上させるようこれまでの阪急駅構内の看板広告及び有機的な新聞広告等を継続する。正門横のフェンスに園児募集に関するターポリン幕を設置して近隣地域へ広報する。入園説明会は、より園児・保護者に親しんでもらえるよう体験を主としたものに内容を変更する。また、コロナ禍により中止していた園庭解放を4月から12月まで月2回程度開催し、入園を希望する園児・保護者に合わせた企画とコミュニケーションの場を積極的に展開する。

・令和6年度園児募集入園説明会：令和5年9月9日（土）・13日（水）開催予定

令和4年度・令和5年度入園・在籍者数

単位 人

学年	令和4年度		令和5年度		
	入園者数	在籍者数	クラス定員数	入園予定者数	在籍予定者数
2歳児・満3歳児	—	—	25	22	22
3歳児	45	45	50	43	43
4歳児	2	60	50	2	47
5歳児	3	52	75	2	63
合計	50	157	200	69	175

※令和5年2月10日現在。

(2) 予算執行管理

予算を今年度から目的分類科目ごとに類型を設定し、グループ化する。予算管理を的確に行い、計画性を重要視し、かつ残額を把握のうえ、有効に執行するよう柔軟に対応する。施設設備の老朽化による突発的な修繕も年々増加し、各種予算の工夫を要する。

(3) 外部資金獲得

各種補助金はこれまでの経常的補助金に加え、教育内容の工夫や施設設備、省エネ等特化した補助金の情報を的確に捉え増額となるよう創意工夫を図る。外部の課外活動や施設設備の有効な活用により外部資金の獲得を積極的に実施する。また無償化制度も活用し預かり条件緩和における預かり保育事業の拡充を図り、預かり保育利用料の増収を図る。

## 8 安全で快適な保育環境の整備

(1) 施設設備の改修

昨年度に引き続き、1975（昭和 50）年建設以来、老朽化している第 1 保育棟及び管理棟の改修を推進する。主な計画は、第 1 保育棟保育室 1 階 3 室及び階段室・廊下周辺の改修が喫緊の課題であるが、予算に応じた計画を進める。また、今年度から始まる満 3 歳児保育・2 歳児保育に合わせ新しい教育・保育の環境整備を促進することも必要である。

(2) 送迎バス

2022（令和 4）年 9 月に静岡県牧之原市の幼稚園通園バス園児置き去りの事件を受け、「通園バス運行に伴うマニュアル」を昨年度全面的に見直し、運転手、添乗員と再度、安全管理について共有し、乗降車時における点呼の徹底と降車後の車内確認を運転手、添乗員に加え教職員も実施し、その確認者を台帳に記載している。また、今年度に送迎バスにおける安全装置の設置が義務化されることを受けて、速やかに設置する予定である。

(3) 危機管理

昨今の急激な自然環境の変化やウイルス感染症、世界情勢の恐慌化を踏まえ、昨年度、危機管理規程を整備し、危機管理対応マニュアルを策定した。今後、さらに危機管理マニュアルを最新に更新し、教職員に周知徹底を図り、あらゆる危機管理の態勢を整備しておく。また、不測の事態の時に園児を安全にかつ確実に保護者に引き渡すため、「園児引き渡しカード」を活用する。

(4) 警備

正門入口、東門入口とも常に施錠し、入出管理を徹底している。来園する保護者には保護者証を配布し、確認している。セコム警備システムを継続して導入し、開園閉園中に関わらずセコム警備システムを活用し、また、保育室にサスマタを常備し、不審者の侵入に備える。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

主に園児への感染症対策として以下の通りである。5 月 8 日から感染症法上の分類が 5 類に移行されることを受けて、柔軟に見直す予定である。

### 令和 4 年 2 月現在の新型コロナウイルス感染症対策

①園児の感染は原則 7 日間の出席停止
②園児の濃厚接触は原則 5 日の出席停止
③登園時間の拡大を 15 分拡大（午前 9 時→午前 8 時 45 分）
④男子女子別における時差登園
⑤サーモグラフィにおける来園時の検温

⑥手洗い、消毒の徹底（消毒液等の設置）
⑦保育室、遊具等の消毒
⑧保育室内の空気清浄機設置
⑨昼食時の黙食、一方方向での食事、園庭等屋外での食事、パーテーション設置
⑩行事等における来園者の人数制限
⑪送迎バス内での会話禁止、車内の消毒
⑫校医（加藤小児科医）への随時相談
⑬感染状況の記録、理事会等への報告

(6) 幼稚園周辺環境

幼稚園の立地条件により、正門前道路は緩やかな S 字カーブであり、かつ阪急、JR の最寄り駅への幹線道路となっているため交通量が多く危険性が高い。また、保護者等のアンケートにより度々横断時の危険性が指摘されている。これまで注意喚起をする道路舗装等の対応がなされているが、さらに安全性を担保するため警察署、市役所等関係各所に働きかけさらに安全性を向上させる。

(7) 登降在園時の状況確認

登園、在園、降園における園児の状況は安全性を確保する上で一番重要な要素である。出欠等 登降園システムを見直し、最善の方法を模索していきたい。

(8) 施設設備全般

令和 5 年度に限らず、施設設備の改修や安全性は募集対策に直結し、大きな影響を与えることから計画に基づきながらもより迅速性をもって整備されることが望ましい。改修のみならず快適な施設整備を基調とすることが求められている。さらに芸術系大学を併設校にもつ強みを活かし、造形や感性をより醸成できる特化した施設設備の充実が不可欠である。

## 9 コンプライアンスの徹底とガバナンスの確立

園長をはじめ在籍する教職員がより法令を遵守し、引き続きコンプライアンスの徹底とガバナンスの強化に取り組み、研修等を活用し、高い意識を醸成する。

### 【4】その他

(1) 主な学事日程（予定）

- ・令和 5 年 4 月 11 日（火） 始業式
- ・令和 5 年 4 月 12 日（水） 入園式（分散形式予定）
- ・令和 6 年 3 月 15 日（金） 卒園式
- ・令和 6 年 3 月 18 日（月） 修了式

(2) 管理運営

- ・運営協議会

昨年度から成安幼稚園運営協議会規程を整備し、以下の重要な事項を協議し、園の教育・運営・管理の方針等を明確化する。



#### 協議事項

幼稚園の運営全般に関する事項
幼児の教育・保育に関する事項
年中行事に関する事項
園児の募集に関する事項
新規事業に関する事項
その他園長が必要と認めた事項

#### (3) 会議体

今年度から従来行われていた打ち合わせを明確にし、より園長を補佐し、運営協議会の審議・協議・報告をすることでその過程も含め学年主任と情報共有するため、予算、施設設備、人事、募集対策における会議体を設ける。

【令和5年3月25日 第213回理事会 決議】